

# コーディネーターアンケート結果 (平成29年9月19日)

## [1] コーディネーター研修を受ける前に比べ、+αの何かをできるようになったか？

できている	11
できていない	5

## [2] なぜできないと思われますか？

業務で精一杯だから	2
何をしたらいいかわからないから	1
Drの指示がないから	1
上司に認められた業務以外のことはできないから	3
<その他>	
今の職場では必要とされていないから	
病棟勤務のため継続した介入が困難	
単独で動くことはできない。チームがあるとよいのではないかと思う。	

## [3] モチベーションをあげるため、取り組みやすい環境にするための要望

対象者やタイミングなどを具体的に記した事例集	8
県知事名による認定証	5
診療報酬(指導料・コーディネーター配置による加算など)の算定	7
受検、受診、受療につないだ患者数に応じたインセンティブ	5
<その他>	
DPC係数、施設基準、病院機能評価などの算定条件に、コーディネーターの配置が入ると活動強化に役立つ	
一般企業にも一人は配置すること…というようなことにできるとよい	
コーディネーターがいないと肝炎治療薬が扱えないようにする	
(一部抗がん剤等の薬で、eラーニング修了者しか扱えないという事例あり)	
コーディネーター同士の懇親会	

## [4] コーディネーターについての自由意見

最新の治療について勉強できるので肝炎のことについて聞かれたときの参考になっている。
コーディネーターの名簿があれば連携の強化になると思う。医療従事者への広報が必要。
一般に対してコーディネーター自体の知名度を上げるような広報活動が必要。
先日の市民講座のようにコーディネーターが勤務先関係なく協力しあって活動できるとよい。
情報交換ができ、他機関の活動状況を知ることができました。
肝炎ウイルス検査をドックや企業の健康診断に必須項目として組み込んでしまうとよい。
コーディネーターの同士の地域連携 医療連携ができるとよい。
患者への指導などはできていないが、研修で学んだことをスタッフ教育に活かしている。
症例検討会や、コーディネーター間の話し合いの場が増えると顔見知りになり連携しやすくなる。

# コーディネーターアンケート結果1/2(平成30年3月12日)

## [1-1] 昨年と比べ、コーディネート業務がしやすい環境になりましたか？

なった	15
なっていない(変わらない)	19

## [1-2] 昨年と比べ、コーディネート業務をできるようになりましたか？

できている	20
できていない	14

## [2-1] どのようなコーディネート業務をしていますか？

肝庇護剤服用患者に対する治療歴の確認の声掛け
友人や親戚に肝炎検査をすすめ、実際に受検してもらった
職域の肝炎検査の実施の取り組み推進
肝炎ウイルス検診陽性者に対し、受診勧奨行うだけでなく、医療につながったことが確認できるまで再勧奨を実施し、必要性を伝えることができた。
受診勧奨時における説明等が研修以前より具体的に説明できるようになった。 また、がん予防教室や予防接種業務においても、肝炎についてふれるようにしている。
肝機能が高い人に対して肝炎ウイルス検査の受検確認、治療中の方には治療状況の確認をしている。
HIV検査に来所した方に肝炎検査をすすめる。 肝炎医療費助成の申請に来所した方に家族への検査をすすめる。
採血業務のときに、今までは知らなかった栄養や薬のことを少しではあるが話せるようになった。
肝がんの家族歴がある人に肝炎検査を受検の確認をしている。 本人が肝炎の既往があれば経過等を聞いている。
肝炎検査ポスター作成。抗ウイルス治療後の定期受診の勧奨。
初診の問診票に、肝炎検査歴の有無の項目を加え、未受検者に無料検査等の説明をしている。
入院時のオリエンテーションで、患者が不安なく診療を受けられるようニーズに沿った指導を行っている。
市民健診等の受診者や希望者への肝炎検査勧奨
Q&Aファイルを使い検査結果説明に使用している。受診勧奨はがき作成。
過去の検診での陽性者が受診・治療を開始されたかの確認(電話やレセプトで)

## [2-2] コーディネート業務の中で印象に残っているケース(関わり)

問診票にB型肝炎既往と書いた新患に声かけしたところ、治療はしていないとのことで治療薬の話を実施。受診を迷っていたが、近日中に専門医を受診を試みたとの回答だった。
患者さんから肝炎助成の書類について問い合わせがあり、医療機関と市町と連絡をとり、無事に申請できた。
自社の社員に肝炎検査受検推進し、社員の肝炎に対する意識向上と受検率が上がった。
肝炎検診の意義を理解しておらず、受診勧奨をしても医療にかかることの必要性を中々理解されない。
B型肝炎の治療・助成制度の提案した人から、「他医では相談しても治療の話まではされなかった。何年も不安を抱えていたが話を聞いてくれる人がいてよかった」と喜んで頂けた。
妊婦健診で陽性とわかったが、放置されていた人に受診勧奨したところ、自分の母親も検査し陽性で、これから2人で定期的な検査を受けていきたいといわれた。
肝炎治療に関する相談業務の際、家族にも肝炎検査をお勧めし、受検してもらえた

# コーディネーターアンケート結果2/2(平成30年3月12日)

## [3] なぜできないと思いますか？

業務で精一杯だから	5
何をしたらいいかわからないから	5
決められた業務以外のことはできないから	2
<その他>	
個人的には興味があるが、病院として取り組んでいないため個人では活動できない。	
院内での啓蒙活動、院内職員への周知が出来ていない。 病院の中で認められていないと行動しにくいと感じる。	
異動	

## [4] モチベーションをあげるため、取り組みやすい環境にするための要望

対象者やタイミングなどを具体的に記した事例集	11
診療報酬(指導料・コーディネーター配置による加算など)の算定	8
受検、受診、受療につないだ患者数に応じたインセンティブ	7
<その他>	
拠点病院のスタッフへの周知、研修	
病院組織への働きかけ	
TV等のマスコミでの広報、情報交換の場、先進的な取り組みの情報、学習会	
イベントで使用できるパネルや、グッズ	
勉強会か情報交換会を定期的に開催してほしい	

## [5] コーディネーターについての自由意見

職場においての活動の際、会社の理解が活動のしやすさにつながります。 会社の経営層の理解が進むような啓蒙対策などがあれば更に職域での活動が広がると思います。
自分の活動がクリニックにプラスになっているのか目に見えないので、モチベーションが停滞気味。
マスコミの社員のコーディネーター養成、そして職場の検査がすすめば、検査が推進されると思う。
拠点病院の肝臓病教室・カフェはいいものだと思う。個人的に参加したい。
活動報告や試験などについて明確にした要綱ができ、役割として定着していくのではないかと思います。
肝炎検査の啓発活動や無料相談などを人の集まる場所で行うとよいと思う。
現在のバッジは施設の規定でつけられない。カードやプラスチックの名札を希望。
バッジが大きすぎるので小さめのピンバッジを希望。
商工会議所での従事者研修会を後日、動画で見られるようにしてほしい